第６４期公益社団法人有隣厚生会事業報告

（平成２９年４月１日～平成３０年３月３１日）

当法人は、『医療、保健、福祉、教育その他より良い社会の形成に関する事業を総合的一体的に行い、地域社会の福祉の増進及び地域住民の生活向上に寄与する』ことを目的に平成２６年４月１日に公益社団法人として認定を受け、より公益性の高い法人として各事業を深い連携でつなぎ、一体の事業として展開してきました。不採算事業も、他法人が手掛けない事業であろうと、市民の要望を優先し、公益法人としての活動として積極的に取り組みました。

今期は、昨年度に続き、各事業ともに赤字となり、大変厳しい結果となりました。公益性を第一優先に事業を展開してまいりましたが、急性期病院という不採算事業に取り組む中で、法人事業を効率よく、かつ改革を大胆に推し進め、各病院の機能がフルに発揮できる体制づくりを斬新に取り組んでいくことが肝要であると改めて痛感しております。

赤字の原因は大きく２つあげられます。第一は御殿場市が黒字化し、不交付団体となったことで、当法人が予定していた特例交付金が３期連続で交付されず、結果、富士病院と東部病院は３年間の合計で４億２千万円の交付金収入がなくなりました。一般的に言われる市立病院の運営に関し、市の負担額は人口１万人に対して年間１億円となるといわれており、市立病院の機能を多くの診療科でカバーしている当法人は、その意味でも市立病院のない御殿場市の医療負担が少なく済み、その結果として市の財政の黒字化に間接的に貢献していると言えます。御殿場市の財政が健全化し、市として不交付団体となり、反面、公的役割を果たす当法人の病院運営事業は，財政的に窮地に追い込まれる事態が継続しております。赤字の原因の第２として、運営の主体である富士病院の急性期としての機能が発揮できず、平均在院日数の増加、日当点の減少により、年間の収入が頭打ちになっている点です。その原因は急性期を終えた患者様の次の受け入れ先が決まらず、入院期間が延びてしまったことにあります。この解決には‘’入院患者様のスムーズな法人内の転院’がキーワードです。

平成３０年度は、医療と介護報酬の同時改定に加えて、国は様々な施策の見直しをおこない、『２０２５年モデル』の実現に向けて、その医療・介護の提供体制の再構築がスタートしております。当法人の３病院が各々の役割を明確にして、国が進める地域包括ケアシステムのどこを担当するのかを意識していかなければ、地域の患者様のケアがスムーズな流れません。また運営上においても、提供サービスの役割をしっかり満たしている施設が、健全な運営ができるようになっております。急性期病院である富士病院の運営が大変厳しいのは、スムーズな退院が出来ず、満床状態が続き、救急が受け入れできず、平均在院日数が伸びたことが最大の原因です。この問題を解決するために取り組んできた東部病院の地域包括ケア病床（２３床）が、患者の流れを作る原動力として期待できます。東部病院が在宅復帰のプロ集団として変貌を遂げ、急性期を経過した患者様が在宅に流れるシステムが構築出来れば、富士病院の長期入院患者問題が改善でき、満床による救急患者の受け入れに支障をきたす問題も解決し、

地域の医療・介護のスムーズな流れができます。　また当法人には、若い次の時代を担う優秀なスタッフが大勢おり、、この苦しい時代を乗り越え、次の時代の有隣厚生会の存在意義を見出してくれることも期待できます。

平成３０年度は、混迷する医療の新時代を生き残るための道しるべを見出し、当会が地域包括ケアシステムの推進役として貢献できるように各方面に発信していく所存です。

公益事業の内訳

１．病院・診療所の運営
２．訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所の運営
３．高齢者のグループホームの運営
４．一般住民に対する医療健康づくりのためのセミナー、講演活動等
５．医療人材の養成支援
６．病院、施設等における各種相談助言

１．病院・診療所の運営

御殿場市、小山町の地域を中心に、地域医療の確保とこれを通じて地域社会の発展に寄与することを目的として、二次救急医療、急性期医療、行政や住民の医療ニーズなどに対応した診療科の開設運営、その他これらに付随または関連する事業等を一体的に実施しました。

現在、急性期疾患に対応する一般病床を持つ富士病院、一般病床及び療養病床を持つ富士小山病院、一般病床及び包括ケア病床と（透析）センターなどの機能に加えた東部病院、地域唯一の産科である共立産婦人科を運営しております。富士病院は今期も救急に力を入れ、退院促進と受け入れ体制強化を図りました。電子カルテ導入の中、救急車の受け入れ台数は昨年度と変わりませんが、平均入院患者数は大きく増加しましたが、医師たちの負担増の影響もあり、平均在院日数が増加し、各種手術、検査、レントゲンも減少する場面が見受けられ、平均日当点が減少してしまいました。

この解決策は、３病院の機能分担と連携強化です。その中心として今期、東部病院に地域包括ケア病室を計画し、病棟、浴室、リハビリ室の改修工事を実施し、平成３０年４月にオープンできました。東部病院と富士小山病院が主に、療養、在宅に向けての患者様を収容することで、富士病院の満床で長期化してしまっている３割近いベッドが空き、急患を断らないで対応することが可能になり、地域の救急医療体制・包括ケアシステムが整備されます。この循環を作らない限り、法人全体の健全運営は得られません。

富士小山病院は、小山町より昨年同様６，５８１万の特例交付金を受けることで、小山町との関係がより深まり、連携が更にスムーズとなり、小山町唯一の一般病院としての期待が膨らんでおります。また昨年導入したオーダリングを更に発展させ、本年２月には電子カルテに移行し、精度を上げながら、省力化に取り組みました。

東部病院は整形外科の常勤医師の採用はあったものの、期待通りの入院増には繋

がらず、地域包括ケア病床の開設準備の経費をかけながらの厳しい運営でした。また共立産婦人科も少子化の中、御殿場市の出産件数の減少もあり、年間３０６件から２８８件となりました。各々の施設で特色を伸ばし、機能分化を進め、患者の病態に合わせて、３病院１診療所が、よい連携と循環を作ることが法人の運営に不可欠と再認識しました。また強い連携を持つ医療法人沙羅　東富士病院とは、認知症患者を含めた精神科疾患の対応で連携を深めております。

健診事業については、御殿場市、小山町の住民健診（特定健診、乳がん、子宮ガン等）を中心に、最新の医療機器や技術力等病院の持っている機能をフルに生かした精度の高い検査を実施し、その結果データを分析し、市の医療計画への反映や住民の疾病予防と公衆衛生向上に寄与しました。また各種キャンペーンの他、腎不全予防のためのＣＫＤ啓発活動など医療機関、住民の健康意識の向上のため活動も積極的に取組みました。

富士病院の運営

富士病院は、救急患者の受入件数は、年間９９１件（昨年９９１件）でした。さらに沼津地区の内科２次救急の支援（広域救急）は年間２４日担当し、救急車７３台（昨年度も７８台受入）を受入れました。内科以外にも外科は二次救急医療を引き続き週２日受け持ち、加えて第２、第５土日の日当直の外科担当も実施しております。循環器疾患は２４時間３６５日緊急カテに対応しました。小児医療も、センターからの入院依頼を受け、緊急透析をはじめ、吐下血などの対応もできる範囲で実施しました。また緊急内視鏡についても看護スタッフの待機を設置し、検査、放射線、手術室、ＭＥも夜間対応可能な体制で臨みました。放射線技師については富士病院で富士小山病院、東部病院の待機も支援しております。また技師部門のグループ内の派遣は従来のＭＥ，放射線科、検査技師に加え、リハビリスタッフも東部に派遣を開始しました。

スタッフ教育に関しては同様に注力、医療水準のアップを図りました。また、脳外科領域においても、最新の電子顕微鏡による手術の準備をし、スタートしました。看護師の特定行為研修認定施設指定を目指しての準備も開始しました。

急性期医療以外にも地域で必要とされている医療の継続と診療内容の充実、診断の精度を上げるための医療機器等の整備など診療レベルの向上に努めました。

健診事業も全体的に増加し、出張健診も新たな企業が加わりました。健診専門医師を採用し、検査結果に基づく診断、健康管理及び予防等実施し、治療に至る包括的対応を行い、地域住民の健康予防対策室的な役割を実践しました。

しかしながら、長期入院患者の退院促進、入院期間の短縮、連携による患者の他院への移動が進まず、救急、紹介患者様を満床でことわざるを得ないケースも多く、新入院患者数が激減、平均在院日数が伸びてしまったことが収益悪化の主要因です。

以上の結果として、一日平均患者数１２９．８人（昨年１２５．５人）となりました。平均在院日数１５日（昨年１４日※白内障等短期入院を除く。）で昨年より増加してしました。平均入院日当点は５，９４８点（昨年は６，０７２点）でした。

医業収入については、外来収入が１，９０３，９８９千円（昨年比６．３％増：昨年度実績１，８９２，０５３千円）と増加、入院収入が、２，８４０，５４６千

円（昨年比０．３％微増：昨年度実績　２，８３１，８９１千円）でした。保健予防活動は、１８６，１５１千円（昨年比５．５％増：昨年度実績１７６，４０６千円）と増収となりました。医業収益総額では５，２０２，３０３千円（昨年比０．１％昨年度実績５，１４９，５２０千円）の増加となりました。

医業費用については、給与費２，６４７，４７３千円（昨年比２．６％増：昨年度実績２，５７９，７２５千円）となりました。材料費は１，５９７，４０９千円（昨年比２．９％減：昨年度実績１，６４４，８１７千円、委託費は２５７，７３５千円（昨年比０．４％微減：昨年度実績２５７，２８４千円）経費は７３２，２９７千円（昨年比６．３％増：昨年度実績６８８，４０４千円）これは電子カルテ移行に伴う消耗品・消耗備品の影響があります。減価償却費は９８，８６５千円（予算比２０％減：昨年度実績１１８，７０７千円）でした。今期、医業収入は微増でしたが、人件費をはじめとした電子カルテ関連の支出が多く、結果として１８６，５００千円［昨年１９７，８９１千円の損失］の大きな経常損失となりました。

この赤字解消は、入院の長期化をなくし、退院促進を進め、満床による救急、紹介のお断りをなくし、平均在院日数を短くすることにつきます。市立病院がなくても、安心安全な医療を受けることが出来る医療環境を目指して取り組んできましたが、行政からの支援なしでは黒字化は到底困難で、このままでは、近い将来運営が行き詰まることは明白です。公益活動をしっかり行い、成果を出し、役割を果たしながら、急性期病院の運営を担当して、頑張っておりますが、危機的状況に陥っている事実を行政・市民の方にもご理解頂きたい。

富士小山病院の運営

富士小山病院特別会計経常収益の内、介護保険収益(介護療養病棟)は、前年度に引き続き地域の高齢化や老々介護、施設入所困難な医療度の高い介護者等の増加により、一日平均５８．１人とほぼ満床状態となり前年度並みの収入となりました。介護度の高い待機者が前年度にもまして増加しており今後もこの傾向が続くものと思われます。入院収入(一般病棟)は、患者数が前年度一日平均１８名から２０名に増加し前年比２，３００万円余増収となりました。主な要因は、医療度の高い在宅患者の増加等によるものと考えられます。外来収入は、従前からの内科及び眼科患者の減少傾向に歯止めがかかり、透析患者も前年比月平均７名の増加により、前年比１，８００万円余増収となりました。本年度は行政の第二次救急医療施設医療機器整備事業１，０００万円の助成金を得たこと等から経常収益は前年比５，７００万円余の増収となりました。

経常費用の内、主要な給与費は前年比概ね横ばいで、経費の内建物防水工事・屋上看板補修・外来診察室パーテーション(患者プライバシー保護)補修等に伴い修繕費が増加しました。また、オーダリング導入による減価償却費等の増加により経常費用は前年比６，７００万円余増加しました。

結果、△４０万円（前年比△１，０００万）の損失計上となり、建物の老朽化に伴う建て替え資金の計上はできませんでした。昨年同様に小山町からの特例交

付金６，５８１万が含まれており、助成がなければ、機器の整備や修繕は厳しい状況でした。

医療職員の確保は、看護師７名・看護助手（介護士）１名・社会福祉士２名・事務職員２名を採用しましたが、これの業者紹介料として１８０万円を要しました。退職者は医師１名・看護師６名・看護助手（介護士）４名・社会福祉士１名・事務職員１名で、特に介護士不足は深刻で、求人倍率の上昇や地域への企業進出等の影響を受け前年同様新卒も含め厳しさを増しております。このため、前年に引き続き就業先に選ばれる職場を目指し、前年１０月に導入したオーダリングを、本年２月から電子カルテに移行本格稼働し、病院業務の省力化・医療事務の改善に努めました。また、医療職員の腰痛予防の観点から電動ベッドの一部入れ替えを行う等職場環境の整備を図りました。このほか、静岡県の看護師勤務環境改善施設等整備事業により、更衣室・休憩室の整備に着手し次年度完成予定です。

小山町内就業者の健康確保増進を図る観点から、全国健康保険協会が行う検診事業を導入すべく、当該保険協会の新規委託検診機関として承認を得たので、次年度４月から当院における新規事業として実施する運びとなりました。

東部病院の運営

平成２９年度の医業収益は、１，０８９，０８３千円で（前年比△９，０２９千円）、当期損益は△１１８，９９８千円（前年比△２０，７７２千円）となりました。

入院患者数は、本年度延べ患者数６，９８５人（前年比△１８４人）、一日平均患者数１９．１人（前年比△０．５人）となり、平均在院日数は、１４．９日（昨年１０．６日）と昨年より増加しました。新入院患者数については、３２９人で、昨年より２２％の減少となりました。収入については、２３６，５８２千円（前年比△３９，６１３千円）となりました。

救急患者のスムーズな受け入れが出来なかった事例があり、救急告知病院としての役割を再確認する必要があります。また、１２月末の内科常勤医退職に伴い内科系疾患の受け入れが困難となった現状も重なりました。常勤医の確保が最重要課題となり、早急に採用活動に取り組む考えでおります。しかしながら、１０月より念願の整形外科常勤医師が着任し、リハビリを含めた入院が可能となりました。新しい入院患者層の受け入れ態勢が整い明るい兆しとなりました。本年度は、県の病床機能分化促進事業費補助の地域包括ケア病棟整備に取り組みました。整備に伴い、医局改修費等のコストがかかりましたが、管理棟を建設せず既存建物内の整備に留め、改修費半減させることができました。地域包括ケア病床の開設は、御殿場・小山地区では初めての取り組みであり、同法人施設に加え、地域における連携体制の構築を目指します。

外来延べ患者数は、３８，６２０人（前年比＋１７２人）、一日平均患者数１２３．４人（前年比＋０．６人）で、ほぼ前年並みの患者数を確保できました。収入については、７１６，４８４千円（前年比＋８７５千円）となりました。透析収益は、外来５６１，０６０千円（前年比＋１２，１１９千円、収入構成比７８％）

で、延べ患者数は１８，１２０人（前年比＋４８５人）、入院１００，５３０千円（前年比＋２，１００円、収入構成比３６％）で、延べ患者数は３，１９９人（前年比＋５６６人）となりました。

健診部門は、企業健診・行政合わせて、５８，２６５千円（前年比４，６７１千円）となりました。新規企業契約もあり前年より増収となりました。市の特定健診、乳がん検診への積極的受け入れも引き続き行っていきたいと思います。

共立産婦人科医院の運営

平成２９年度の経常収益は２８１，１４９千円で、当期損益は△５８，６９７千円となりました。

分娩件数については、少子化の影響で地域の出生数も減少傾向から、今年度はお産２４６件、帝王切開４２件で、合計２８８件となりました。（前年度３０６件△５．９％）、外来数については、延患者数１１，７２８人（前年比△２６人）一日平均患者数３２．１人（前年比△０．１人）、子宮がん検診については、３，１９８人（前年比△７９人）となりました。

平成２９年度より有隣厚生会に本格的に移行しました当院は、従前より産婦人科医師の確保が不可欠でしたが、常勤医師の採用と聖マリアンナ医科大学の非常勤医師を招聘し、医師の診療体制は整いましたので、更にチーム医療体制、組織力の強化を図り、質の高い医療を目指し地域の産科医療に貢献して行きたいと思います。引続き経費削減、サービス向上に努め、先ずは収支均衡及び安定運営を目指し努力します。

1-1　一般外来

富士病院の外来については、診療精度の向上を目指し、各種検査の機器の更新を積極的に行い、また、コメディカルの技術向上を推進した結果、診断・治療能力は着実に進みました。当会では各種検査結果は当日治療に反映できるよう努めており、結果、迅速な診断を可能にしております。加えて、待ち時間対策としてサテライト入力を導入、診察・スタッフの動線の改善により待ち時間短縮が進み、患者様のスムーズな受診に繋がりました。しかし、患者様増加の対応に追われる場面も多く、顕著な改善とは言い難い状況で電子カルテ化が急がれます。富士小山・東部病院は患者数横ばいでしたが、専門外来など特色を持った外来は定着してきており、他医院からの紹介も増加している。

【平成２９年度実績】（　）は昨年度実績

一般外来数

年間延受診者数２６２，６５７人（昨年２５２，８５７人）

富士病院１７０，５０５人（昨年１７０，３２４人）、富士小山病院４１，８０４人（昨年４１，７９２人）、東部病院３８，６２０人（昨年４０，４４２人）、共立産婦人科１１，７２８人でした

１日外来平均患者数

富士病院５８０人（５８３人）、富士小山病院１４１人（１４０人）、東部

病院１２３人（１２９人)、共立産婦人科３２人（４９人)、合計８７６人（９０１人）

1- 2 健診事業

一般健診、人間ドック、特定健診、婦人科健診、小児健診など幅広く当院の診療体制を活用した健診が行われた。

【平成２９年度実績】

特定健診受診者数　　２，６７０人（２，６６６人）

富士病院６０８人（４８２人)、富士小山病院１，０３４人（１，０３０人)、東部病院　１，０２８人（１，１５４人)、

マンモグラフィー健診　３，０３６人（２，４６３人）

富士病院１，４７１人（１，１２６人)、富士小山病院５２１人（６０３人)、東部病院１，０４４人（７３４人）

子宮ガン検診　５，０７２人（１，４３４人）

富士病院　１，７９１人（１，１７８人）東部病院　８３人

共立産婦人科　３，１９８（１６９人）

1- 3 救急医療

富士病院では沼津・三島・裾野の内科広域救急担当を月２回実施した。

救急車受入件数は、富士病院９９１人（９９１人)、富士小山病院１９５人（１７４人)、東部病院９６人（８８人)、共立産婦人科医院３台、合計１，２８５台（１，２５３台）

【平成２９年度実績】

（救急センターからの転送・他地域・病院からの搬送も含む）

・疾患別３病院　　合計

心疾患	２２９人（２２４人）	呼吸器疾患	１６９人（２２８人）
消化器系疾患	１１１人（１６１人）	脳血管疾患	６３人（４８人）
小児救急	４０人（４８人）	外傷系	４２ 人（４０人）
中毒	１０人（１６人）	不明	２３人（２９人）
その他	５９７人（４５９人）	合計	１，２８４人（１．２５３人）

1-4　在宅訪問診療

地域医療構想と地域包括ケアシステムの推進の中でで、高齢者の方々が、安心して疾患に対応した医療・介護の提供が受けられるよう支援し、加えて見取りの問題も包括的に支援する仕組みを徐々に構築するように進めました。連携している施設と連絡を密に取りながら、在宅・施設でその人らしい生き方で暮らせるよう、訪問看護ステーションとも連携して支援してきました。たとえば富士病院では施設入所者の身体情報をあらかじめ連絡をもらい、万一の対応を当直医に連絡しており、急変時の受け入れをスムーズにしました。富士病院は将来、在宅療養支援病院の検討も進めており、シズケア＊かけはしモデル事業への参加も検討している。

【平成２９年度実績】

施設訪問診療件数　３，９６１件

訪問診療患者数１２人
訪問診療回数１４６回

1-5　医療協力・派遣・ボランティア

当法人は他の病院・医院や行政・学校・企業からの医療協力・医師や看護師、技師の派遣・ボランティア派遣の要請などを可能な限り受け、地域医療の向上と各種ボランティア活動を通じて助け合いの精神の普及に努めました。

【平成２９年度実績】

・御殿場市救急医療センターへの一次救急医療代行（年３回）
・救急センターの当直スタッフ派遣
　小児科医師　５０日（５０日）、外科医師　２４日（２０日）
　放射線技師派遣　１０９日（１31日）
・地域医療機関・施設への定期スタッフ派遣協力
　医師　１１施設（富士宮市立・徳州会大和・オレンジシャトー他８施設）
　放射線技師　６２回（東富士病院・富士山麓病院・裾野第一クリニック他）
・医師会行事への医師・看護師派遣、緊急時受入
　予防接種.乳幼児健診　２３回（２２回）
・学校医 校数１３校 校医出動件数　　１７回（１３回)）、
　マラソン大会・体育大会など看護師派遣　５日（３日）
・診療協力（医師会経由含め催し物）　１３件（１２件）
・災害時ホランティア活動　　草取り　　１回
・募金活動金額（ユニセフ募金・ハートフル募金等）０円（２４，５８８円）
・地域防災訓練支援（看護師・放射線技師派遣）　２人（５人）
・高校等への医療担当看護師派遣）　１件（１件）
・地域ケアか意義　　５回

1-6　オープンシステム事業

地域に開かれた病院として、オープンシステムをいち早く導入し、地域全体の医療の質の向上に努めている。近隣の診療所・病院の医師が、当院医療機器を共同で利用し、当院専門医の診断などを付けてお返しする等積極的に取り組む。共同利用の医療機器は内視鏡・カテーテル検査・MRI・CT・ホルター心電図等広範囲であり、他病院・診療所における不足の部分を当会でカバーすることにより、地域で効率よく安全で質の高い医療を展開できることに貢献しています。

【平成２９年度実績】

他施設からの依頼

ＣＴ依頼施設数２２施設（２４施設）　　ＣＴ件数４４１件（４０５件）
ＭＲＩ依頼施設数１４施設（１４施設）　ＭＲＩ件数５０４件（２１０件）
エコー依頼施設数２３施設（７施設）　　エコー件数７３件（３９件）
大腸内視鏡検査依頼施設数６施設（１４施設）大腸内視鏡件１５件（３５件）
胃内視鏡依頼施設数４施設（８施設）　　上部内視鏡件数１７件（１７件）
冠動脈造影依頼施設数８施設（４施設）　冠動脈造影件数 ３１件（２０件）

その他依頼施設数　１６施設（７施設）　　その他件数　１０１件（９３件）
依頼施設数合計　　２５施設（３７施設）依頼件数１，０６５件（７３６件）

1-7　専門領域

① 循環器医療

日本循環器学会の循環器専門医研修施設として、２４時間３６５日体制で循環器科医師を配置し、緊急の心筋梗塞等にいつでもカテーテル治療の対応ができる体制を整えてきました。また、心臓バイパス術、弁置換術など心臓センターとしての機能を充実させ、循内と心外がチームとして合同で地域の心疾患をカバーする医療を提供しました。平成７年に“地域住民の心臓をわれわれで守る”という強い理念でスタートして２３年以上経ち、最高水準の循環器治療ができる病院としての地位を確立しつつあります。またアブレーション治療［経皮的心筋焼灼術］の中でも発作性及び持続性心房細胞に対する治療を中心に３Ｄマッピングシステムを用いて成果を出しております。また第２カテ室の血管連続撮影装置を更新し、鮮明な画像で、救急が重なったときでも対応できる環境となりました。スタッフ教育の問題で、並行稼働が難しい面は改善していく。

【平成２９年度実績】

急性心筋梗塞　　５９例（６６例）、救命率　１００％（１００％）
冠動脈造影法（CAG）　３４８例(３６６例)、
経皮的冠動脈形成術　　３７０例（４０５例）
心筋焼灼術　　７９例（８３例）、
経皮的血管形成術（ＰＴＡ）　　５６例
ペースメーカー埋め込み術　　４３例（３２例）
心臓バイパス術等開胸術　２９例（３３例）
腹部大動脈施術等　８件、
下肢静脈瘤　　２８例、
末梢血管再生医療　１９件
シャント手術　　２４例

②小児科

当会の富士病院は、この地域で唯一小児科の入院ができる施設である。医師の待機は２４時間３６５日体制で急病患者に対応した。平成 29 年度は東海大学の派遣で１名の常勤医と若い小児科医師２名が常勤で加わり、小児医療の充実に繋がりました。センターからの救急受け入れも改善し、地域の小児医療の砦としてさらに発展を目指します。

【平成２９年度実績】

緊急入院件１１４例（８３例）、
各種予防件数２，２７３件（２，０８２件）
乳幼児健診１６６件（１９９件）、
脳波検査５６件（７１件）

③呼吸器内科

当地域は呼吸器疾患の患者が多く、また、専門的な診療ができる病院は、唯一富士病院だけである。昨年度呼吸器内科常勤医師が退職し、昭和大学から非常勤医師の派遣で平成２９年度は乗り切りました。引き続き常勤医師の雇用に努めます。

【平成２９年度実績】

在宅酸素療法患者数　１１４名（６３名）

無呼吸症候群治療患者実数９名（１２名）

④糖尿病内科

日本糖尿病学会認定教育施設として、チームで糖尿病指導に当たり、その管理に傾注しました。また、各種糖尿病に関するイベントを開催し、富士病院の患者会である“ごてんばふじの会”を中心に活発に啓発活動を行いました。スタッフ育成については、糖尿病療養指導士を育て、スタッフ一人ひとりの技術の向上にも力を注ぎました。患者様の教育入院では療養指導チームによる療養指導と並行して、糖尿病の成因、病態、合併症などの全身精査を行い、患者様の病態に合わせた最適な治療を行いました。

【平成２９年度実績】

糖尿病受診患者延数６，４７５名（８，３７０名）

⑤消化器内科・消化器外科・肛門科

当法人では、消化器全般の疾患を正確な診断をもとに診療、治療方針を決定、十分な説明をもとに、患者様にとってより良いと思われる診療を心掛けてきました。

最新の６４列 CT、１．５テスラ MRI、内視鏡、超音波機器、各種血液検査機器これらを操作する熟練したコメディカルが精度の高いデータにより手術方針が決定し、救急医療にも繋がっております。

内視鏡を中心として癌の早期発見に努め、手術も積極的に実施し、症例は年々増加しております。また、肛門科におけるジオン注射など特殊な手技も積極的に取り込み実施しました。

【平成２９年度実績】３病院合計

上部内視鏡検査　２，８７０件　（３，１４６件）

大腸内視鏡検査　１，５２３件（1，２９９件）

ポリープ切除術　３４６件（１７９件）、ＥＲＣＰ　７３件（４９件）

ＥＳＤ　５件（１件）、吐下血緊急入院　３７件（２８件）、穿孔　１件（２件）、腹腔鏡下胆嚢摘出術　３４件（２３件）、結腸癌切除術　４９件（内、腹腔鏡補助下手術　１６件（２１件））、胃癌切除術　３件（８件）、イレウス　１１件（８件）、虫垂　１０件（内、腹腔鏡下手術　５件）（前年度８件）、他　１３４件（１３９件）、鼠径ヘルニア　６０例（７５件）、

消化器系手術合計３０１件（２８２件）、全麻症例　２５６件（２３３件）

肛門科・外来ジオン注射療法　３例（６例）

⑥乳腺外科

検診から診察、検査、手術、化学療法、リハビリ、患者会による心のケアに至るまで一貫した診療体制で、乳がん撲滅のために検診・診療・相談指導・

啓蒙活動などを実施した。またトモシンセシス対応マンモグラフィーは精度の高い画像が得られ、乳がんの早期発見に大変役立ちました。

【平成２９年度実績】

乳房切除術（温存）　２０件（１０件）、
乳腺腫瘤摘出　１７件（１３件）、
その他　５例（６例）
マンモグラフィー検査　３６５１件（４，６８６件）
マンモトーム　１０９例（８５例）

⑦泌尿器科

当地域で唯一の泌尿器科の入院ができる施設であり、皮膚排泄機能認定看護師による指導も実施している。癌手術症例も多く、化学療法患者・結石破砕治療患者も多い。また、新規導入したレーザー破砕装置と軟性鏡による治療は患者様の負担を軽減し、治療成果も大きく、地域唯一の治療として注目を集めております。

【平成２９年度実績】

膀胱腫瘍摘出術28件(25件)、経尿道的前立腺切除術28件(内、レーザー15件、他13件)(25 件)、尿管膀胱結石破砕術19件(23件)、その他39件、合計　114件(内、全麻件数　64件)

⑧眼科

最新の検査機器を導入し、広範囲の眼科診断治療を実施しました。OCT による視神経・神経線維層解析が可能になり、緑内障の診断・治療評価の精度向上、パターンスキャニングレーザーの導入により、網膜光凝固術に伴う苦痛が大幅に軽減され、患者様の評判は大変高く、利用が増加しました。また、手術も白内障意外に緑内障に対してのレーザー・濾過手術や眼底疾患に対して硝子体注入療法や網膜光凝固術等を行った。

【平成２９年度実績】

白内障手術５４４件（６４５件)、緑内障手術１１件（４件)、硝子体注入１７件（２９件)、翼状片・有茎弁移植２４件

⑨人工透析

御殿場市・小山町及び裾野市において当法人は唯一腎臓内科専門医による導入管理から急性期の合併症に対応。さらには外来透析患者の急変（骨折・心疾患・消化器系・脳疾患等）に緊急透析が出来る体制を２４時間３６５日整えている。今年度は導入患者が多かった。

【平成２９年度実績】

入院透析　４５人（５６人）延べ日数３，７４９日（８．１８０日）
外来透析　２２２人（１８２人）
延べ透析回数３２，９０５回（３０，７０３回）
内夜間透析　２８人（３０人）※人数は３月３１日現在
透析導入件数　６４人（７９人）

⑩整形外科

１．５テスラＭＲＩと６４列ＣＴを活用してできるだけ早期に正確な診断･

治療を開始し、リハビリテーションに繋げて、早期機能回復を目指した診療を実施しました。脊椎脊髄外科指導医のもと、手術症例が増加し、新しくなった手術室を活用しております。人工膝関節置換術、関節鏡下検査等も積極的に行い、加えてモザイクプラスティーを使用した骨移植術にも取り組み、骨再生に効果的な低強度パルス超音波療法の採用など新技術も積極的に取り入れた治療を行いました。1名の常勤医師の増加があり、症例は増加傾向となる。

【平成２９年度実績】

人工膝関節置換術　　３例（８例）
股関節人工骨頭手術　　６例（１２例）
大腿部骨折　　３０例（１０例）
胸・腰椎ヘルニア手術　　９４例（６例）
頚椎手術　　１２例（１６例）
関節鏡手術他　１６６件
合計　３１１件(内、全麻件数　203件)

1-8　療養病棟

富士小山病院療養病床６０床利用率９６．６％（昨年９６．６％）今期も生活困難者・生活保護受給者の受入を積極的に行った。

【平成２９年度実績】

月平均入院患者数　　５８人（５８人）
内生保患者　　４人（４人）
介護度　　４．４（昨年は４．２）

1-9　医療従事者による調査研究・学会発表

臨床より得られた研究課題について、研究し、得られた成果を学会・研究会で発表し、医学の発展に貢献した。

【平成２９年度実績】

医師　１５名(２９名)日本腎臓学会、看護師　３名(５名)、その他　２０名（４名)、
合計　３８名(３８名)、

例　「欧州心臓病学会 2017」
スペイン国（バルセロナ)
本田雄気医師
「胸部症状のない無症状な糖尿病患者における高度冠動脈病変の予測因子の研究」　ポスター発表

健康増進指導技術研修会
栄養課　管理栄養士　花山陽平　日本糖尿病療養学会
「友の会環境整備と外部行事参加への取り組み」発表

1-10 一般入院

富士病院の入院患者数は順調に伸び、さらに昨年２月より超急性期、急性期、退院支援病棟と病床を区分けし、病棟管理師長を配置して救急受け入れ体制を確保すべく、ベッドコントロールを効率よくまわしていくことで救急患者、紹介患者の受け入れ体制の強化を図り、取り扱い患者数の増加を図りました。しかし、機能分担が医師不足などの影響で東部病院、小山病院とも取扱い患者数が少ない状況が継続し、経営への影響が大きかった。

入院延べ患者数

１日平均取扱患者数　１７１．９人（１６６．５人）

富士病院　　１２９．８人（１２５．５人）

富士小山病院　　２０．３人（１８．２人）

東部病院　　２０人　　（２１人）

共立産婦人科　　１．８人

平均在院日数

富士病院　１５日（１４日）、富士小山病院　１６．４　日（１８．７日）

東部病院　　１５日（１１日）、共立産婦人科５．６日

年間新入院件数　　４，４１３人（４，５４５人）

富士病院　３，３５５人（３，４９０人）、富士小山病院　６５１人（６２７人）

東部病院　　３２９人（４２２人）、共立産婦人科６７２人

２．訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所の運営

「その人らしさを大切にする看護」を理念とし、家族と共にその人らしく在宅で過ごしたいという願いに寄り添い、幅広い訪問看護活動を行っています。また、御殿場、小山地区は、開業医、勤務医が非常に少ない為、医療情報を地域に伝えるという役目も担ってきました。

富士病院の訪問診療に同行し、利用者、家族、主治医とのパイプ役として在宅医療を支えています。在宅における訪問看護の必要性は高く、小児から高齢者まで多種多様な疾患や医療処置に２４時間３６５日対応しています。

利用者数は、平成２８年度の利用者数は、月平均８９，３名、訪問件数は５，７０４件、平成２９年度の利用者数は、月平均９３．０名、訪問件数は５，８７６件でした。施設数の増加や訪問看護ステーションの新設など地域移行推進の中、今後も、家族の介護負担を考慮し、その人らしく在宅生活を継続できるよう支援を続けることが重要です。同時に医師を含む多職種との連携を円滑に行い、地域の方々の要望に応えられるような体制作りを継続していきます。

在宅でのリハビリテーションの必要性も更に増加し、理学療法士は、各疾患に応じ、機能訓練、日常生活動作、及び指導、呼吸理学療法等多岐に渡る機能訓練強化、訪問リハビリテーションを積極的に取り組みました。

【平成２９年度実績】

（地域連携活動）

利用者数　　：　１，１１６人（１，０７１人）

指示書依頼医療機関　　：　２７施設（２５施設）

訪問年間回数　　：　５，８７６（５，７０４件）
夜間休日相談回数　　：　９１件（１５９件）
夜間休日出動回数　　：　１６５件（２１８件）
サービス担当者会議出席　：　　５２件（７０件）

静岡県訪問看護ステーション協議会主催の訪問看護電話相談
御殿場看護学校へ講師派遣（２人）
訪問看護実習生の受け入れ（御殿場看護学校）３１名
医療機関の看護師等研修（５人）
グループホームごてんば健康チェック（１回/週）

併設の居宅介護支援事業所では、介護支援専門員（訪問看護師と兼務）が利用者の要望に基づいてケアプラン作成に当り、サービスの調整を行いました。

居宅介護支援

ケアプラン作成件数　：　３６件

介護支援専門員（４人）在籍し月１回の介護支援専門員連絡協議会に出席
御殿場市介護認定委員（１人）
御殿場市介護保険運営協議会委員（１人）
介護認定調査員（２人）認定調査施行
介護支援専門員在宅医療研修（２人）

３．高齢者のグループホームの運営

″グループホームごてんば”は、開所から１６ 年になります。認知症の入居者、ひとりひとりに合わせた介護をするために、スタッフ間で話合いを重ねながら柔軟に対応しています。

年間で入居者１名・退居者２名です。退居者は入院中に亡くなった方１名、自　宅に戻られた方１名です。入院対応は３回行い、すべての入院日数を合計すると　３７日となっています。

入居時より、病状が非常に重い方が多いため、職員の業務負担が増えています。

職員の退職がありましたが、職員募集をしても、人が集まらず、入居制限をして対応をしています。

重度化しても、家庭的な環境の中で日常生活の援助を行い、認知症の進行を穏やかにし、訪問看護ステーションと連携して健康管理を行いながら、明るく楽しい生活を送って頂いています。

地域密着型サービス事業所として、運営推進会議を年間６回開催し、様々なご意見を参考にしながらサービスの質の向上を行っています。運営推進会議を利用して、地域との連携が円滑に行えるよう活動しました。

研修研究活動

職員の研修においては、内部研修を行い職員のキャリアアップを行いました。

地域貢献活動として

グループホームごてんば便りを発行し、家族の方々、地域・連携施設などに配布して活動報告を行いました。

地域の方からボランティアの参加希望があり、積極的に受け入れ福祉の心を共

有して頂きました。

近隣の御殿場聖マリア幼稚園との交流を通じて、幼児から歌やお花などのプレゼントを頂き、入居者の笑顔が印象的でした。

介護についての疑問・相談を無料で受け付け対応しました。

認知症になっても、安心して暮らせる地域を作る啓発イベントのＲＵＮ伴ＴＯＭＯ－ＲＲＯＷ（ラン伴）に参加しました。

平成２９年１２月から平成３０年３月にかけて、御殿場看護学校の老年看護実習Ｉを受け入れ、２２名が５日間、認知症高齢者の実際を実習されました。

４．一般住民に対する医療健康づくりのためのセミナー・講演活動等

4-1　セミナー・講演活動

健康長寿社会づくりのため、地域住民を対象とした健康管理や病気の予防についてのセミナーを主催したり、諸団体等が主催する講座に医師、看護師等を講師として派遣し、住民の医療や健康についての知識の向上に努めました。

【平成２９年度実績】

医師(市民健康大学、糖尿病教室など)　１５回(１９回)
看護師　３回(７回)、こメディカル　１５回(１５回)、
計　３３回(４１回)
糖尿病教室　１２回延４１名
栄養教室　７回延４３人

4-2　健康キャンペーン

地域住民の健康増進を図ることを目的とし、当法人の看護師及び医師の協働によるキャンペーンを地域の特徴などを踏まえて実施しました。

相談コーナーの開設、血圧測定、血糖値チェック、血流測定、試供品の提供等病院内や市民交流センター等を会場とし無料で行なった。このほか、地域医療や生活習慣病に関する普及啓発も行いました。

【平成２９年度実績】

富士小山病院・健康講座　１９０人（１９４人）
しゃくなげ祭（東部病院）　１６０人（１０１人）
伊豆地区糖尿病予防キャンペーン　派遣人員５名　参加者１３８名
御殿場ふじの会　３回　参加者 延べ５３名
（糖尿病患者２３名　スタッフ３０名）

５．医療人材の養成支援

5-1　医療関係の実習生受入指導

病院では、大学や専門学校からの医学生、看護学生等の実習受け入れ、救急救命士の実習受け入れを行い医療に係る人材の育成を支援しています。

また、訪問看護ステーションでは、静岡県立静岡がんセンターと連携して認定看護師教育課程の緩和ケア実習指導を担当し、看護師の資質向上に貢献しています。

特に地元御殿場市医師会が運営する御殿場看護学校の運営等にかかわり、学校の講

義においては当法人の医師、看護師等有資格者 30 人を派遣し、看護師養成について最大限の協力を行ないました。

【平成２９年度実績】

・昭和大学その他から医療関係学部の実習を受け入れた。

医歯学部　21人(18人)、薬学部23人(14人)、理学療法士　2人(5人)、言語聴覚士　0人(1人)、看護師　15　人(10人)、社会福祉士　0人(1人)　救命救急士　15人(15 人)

・御殿場看護学校他

延実習人数　　１，３６３　人　　実習日数　２６６日

非常勤講師人数　　２８人（２９人）　担当時間数　５２３時間（５４４時間）

5-2　セミナー・講演活動

地域の医療従事者の資質向上やより高度な知識の習得のため、当法人、医師会や看護協会等の関係団体が主催する医療従事者を対象とする研修会に当法人の医師ほか医療従事者を講師として派遣した。また、公開講座として地域病院・医療機関を対象に公開講座を開催した。ホームページにも掲載し広く呼びかけた。

【平成２９年度実績】

医師による講演（医師会・薬剤師会など）　２３回(２５回)

看護師による講演　５回(９回)

コメディカルによる講演(放射線技師会、生理検査技師等)　６回(８回)

その他　２回(６回)

合計　３６回(４８回)

5-3　出前授業

地域の中学校・高等学校に出向き、医療に関わる仕事の意義等について講義を行い、将来の看護師ほか医療従事者を目指す生徒が増えるよう啓発活動や命の大切さの教育をするなど出前講座を行う。医療従事者について、さらに興味を持った若者に対しては、「5-5　職場体験実習」に参加する道を開いている。今期は学校から依頼がなかったため実施しなかった。

5-4　職場体験実習

地域の中学校、高校、社会福祉人材センター等が行っている職場体験学習を積極的に受け入れました。

【平成２９年度実績】

高校生高校　２校（１２校）　　学生数　１０名（３０名）

中学校数　　３校（９校）　　学生数　　１０名（２０名）

他団体　　０団体（３団体）　　参加者数　　０名（５名）

5-5　看護学生等への奨学金の貸与

御殿場看護学校等の看護師養成施設学生を対象に、当法人の創案により地域の病院

が連携して奨学金貸与を実施しました。病院部会に奨学金［毎月５万円］の返還は全額免除することとなっている。

【平成２９年度実績】

御殿場看護学校（３学年定員９６人）	学生	２３人（１６人）、
富士リハビリ専門学校	ＯＴ	１人（１人）
北里大学薬学部		１人（１人）

６．病院、施設等における各種相談助言

6-1　医療についての技術、各種の相談・助言

当法人の地域医療ネットワーク（他の病院、開業医、高齢者施設等を含むネットワーク）を活用して、患者と家族にとって最適な医療を受けられるように、住民を対象として相談助言を行なっている。医療機関や施設からは、摂食障害に関する相談、子供の発育・病気に関する相談、グループホーム・個人からは、認知症に関する相談、在宅支援ナースに関する相談、通院中の患者または家族からは就職相談・社会資源活用のための相談、退院後の生活相談・経済的な相談、患者の家族からは、排泄障害に関する相談等がある。基本的にはすべて無料で対応しました。

【平成２９年度実績】

地域医療連携室経由相談件数	１０，３９３件（９，８７６件）
他院より紹介	５，７９０件（４，８１２件）
他院への照会介護棟に関する相談件数	２，９０３件（２，４７４件）
ケースワーカー相談延件数	１２，３７４件（１２，３３８件）
介護等に関する相談件数	１，１９９件（１．７８０件）
医事課相談件数	５７件（７６件）

6-2　生活困窮者等への支援

経済的な理由で必要な医療サービスを受ける機会が制限されることがないよう、生活困窮、心身障害、高齢等の患者に対して、病室料差額等の減額・免除の制度を実施する。

平成１２年１月から子育て世代の負担軽減のため小児科の病室料は無料とした。

【平成２９年度実績】

生活困窮者の室料等の減免件数	３６９件（３７０件）
生活困窮者の室料等の金額	１，１８３，８７４円（１０，３３８，４２０円）
小児科室料の無料化	３，４４６，１００円（３，３５４，５４０円）